



Dr. 健康コラム

## 子どもの新型コロナウイルス感染症について

城里町国保七会診療所 上井 雅哉

新型コロナウイルス感染症による重症者が急増し、多くの患者が自宅療養を余儀なくされた第5波は、ワクチン接種が進んだこともあり、10月以降ようやく新規感染者数、重症者数ともに少なくなってきました。しかし、欧州の感染再拡大の報道のさなか、新たな変異株「オミクロン株」が出現し、感染性の強さや重症化のリスク、ワクチンの有効性についての検証が急がれています。

いずれにしても、行動制限の緩和等によるリバウンドを想定し、基本的感染予防対策（3密を避ける、マスクの着用、こまめな手洗い）の継続が重要です。

今回は、子どもの感染時の特徴とワクチン接種についての考え方についてお話します。



### ○子どもの感染患者の特徴

子どもが新型コロナウイルスに感染した場合、無症状が1割、軽症が8割と、無症状者・軽症者が多いことが特徴です。しかし、1～2割が肺炎症状で入院治療を必要とし、5%未満が重症化すると報告があります。

また、学校における新型コロナウイルスの感染状況については、下表に示したように半数以上は家庭内にあり、子どもへの感染源の多くは周囲の大人であることがわかります。

学校における感染状況について（児童生徒等84,211人、教職員7,843人） R2.6.1～R3.10.31

	小学校	中学校	高校	教職員全体
家庭内感染	70%	57%	33%	23%
学校内感染	3%	5%	19%	10%
感染経路不明	20%	30%	40%	58%

文部科学省：学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2021.11.22 Ver.7)より抜粋

### ○新型コロナウイルスワクチンの子どもへの接種に対する考え方

現在12歳以上の子どもへのワクチン接種が承認されていますが、副反応等の心配もあり、接種するべきか悩まれている方も少なくないと思います。そこで、日本小児科学会の示した考え方(要旨)を紹介します。接種について悩まれている方は、ぜひ参考にしてみてください。



#### 新型コロナワクチン ～子どもならびに子どもに接する成人への接種に対する考え方～

1. 子どもを新型コロナウイルス感染から守るためには、周囲の成人への新型コロナワクチン接種が重要です。
2. 重篤な基礎疾患のある子どもへのワクチン接種により、新型コロナウイルス感染症の重症化を防ぐことが期待されます。
3. 健康な子どもへのワクチン接種には、メリット(感染拡大予防等)とデメリット(副反応等)を本人と養育者が十分理解し、接種前・中・後にきめ細やかな対応が必要です。

公益社団法人日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会(2021年11月2日改訂)より



保護者の方を含め、周囲の大人がワクチン接種をすることが重要であり、子どもへの感染を軽減することにつながります。

なお、子どもへのワクチン接種については、接種の効果や副反応などについて、本人と保護者が十分に理解していることや、接種前(医療者側からの十分な説明)・中(その日の体調とアレルギー歴を含む病歴の再確認、アナフィラキシーを想定した観察)・後(副反応への対応と接種を希望しない子どもが特別扱いされないこと)への配慮が大切です。また、子どもの基礎疾患の有無、家族に基礎疾患をお持ちの方やご高齢の方がいるかどうかなど、慎重に検討したうえで、接種を希望してください。